



学部長メッセージ

「知の力」で乗り越えよう

経済学部長 兵頭 淳史

今、世界は大きな危機と変化の時代を迎えています。現実には日々激動し、将来展望はきわめて不透明です。このような時代にこそ、大学で学ぶ意義はいつそう大きなものとなります。

皆さんは、こうした転換点を乗り越えるための、あらゆる分野に共通する基礎力として次のような力を身につけてください。社会や自然界のデータを正確に読み取り活用する力、歴史を科学的かつ大局的に把握する力、他者の見解を理解し、それをときには適切に批判し、ときにはそれを受け止め自らの見解を柔軟に修正する力です。そして、私たち教員・研究者もまた常に、こうした力を成長させる途上にあります。ともに学ぶ皆さんの入学を心より歓迎します。

木を育て豊かな森をつくろう

文学部長 高岡 貞夫

ご入学おめでとうございます。2020年はいつもと違う春を迎えました。大学生活のスタートも、どこかもどかしい感じがあることでしょう。しかし、生田キャンパスに隣接する生田緑地の森はいつもと変わらず新緑に萌え、生命のエネルギーに満ちています。世界を揺るがす手強い相手は日々の生活や行動を制約しますが、皆さんの中にある学問的好奇心をも蝕むことはできません。これから始まる授業を通じて葉を開き、枝を伸ばし、幹を太くしていくことができます。いつまで影響が続くのかわかりませんが、こんな時には今までにない素敵な木が育つこともあるでしょう。4年後の皆さんの中に豊かな森が広がっていることを心から祈っております。

自ら考え解決する力を

法学部長 森川 幸一

新入生のみなさん、法学部へようこそ！

人類の歴史は、自然災害、疫病、人災としての戦争等との闘いの歴史だったといっても過言ではありません。学問も、そうした人類にとつての脅威を克服するために発達してきたとはいえ、21世紀の現在においてすら、人類はそうした脅威を完全に克服できないでいます。

法学部に入学した皆さんは、社会のあらゆる分野に存在する問題を主体的に発見・分析・考察し、最適な問題解決へと導くことができるような能力を身につけてください。そうした能力を身につけた皆さんが、4年後には社会における有為な人材として羽ばたいてくれることを切に期待しています。

技術の課題に挑む創造的な場

ネットワーク情報学部長 松永 賢次

入学おめでとうございます。

ネットワーク情報学部は、人間同士のコミュニケーションを大切にし、グループワークによる創造的な活動を学修の柱としてきました。

人間同士の密な接触を避けなければならない状況の中、どういった学修活動をしていくのか、新入生の皆さんは大きな不安を抱えていると思います。オンライン授業を試行錯誤して行く中で、現在の情報通信技術の課題が見えてくるでしょうが、それを克服するための新たな知恵を、学部の教員・学生全員で考え、チャレンジしていきける創造的な場にしていくように心掛けていきます。

さまざまなアイデアや不安を教員に伝えて、前向きに大学生活を送るようにしてください。

何故の積み重ねが応用力に

経営学部長 関根 純

大学ではさまざまな知識やノウハウを体系的に教わります。しかし、それをそういうものだと受け身で聞いていては、将来社会に出た時に役立ちません。特に、これからオンライン授業が始まりますが、ぼおっと聞いていると何も頭に残りません。何故、どういう条件や背景だからそうなのか、まで学ばないといけないのです。

そのためには、毎回の授業で、何故そうなのかを疑問に思い、その場で先生に聞くなり自ら動いて確認してください。その小さな積み重ねが考える力を養い、応用力につながるのです。

この厳しい状況にあっても、頭を使って自ら成長することを期待しております。そのために、教員も努力を惜しみません。

正解ない問題解く能力磨こう

人間科学部長 嶋根 克己

皆さん、専修大学への入学おめでとうございます。いま世界は新型コロナウイルスの脅威にさらされており、せっかくの入学式も中止となってしまう、とても残念です。

2011年には東日本大震災が東北地方を襲い、日本は大混乱に陥っていました。そして20年代はコロナ・ショックから始まることとなります。

この問題は今後の世界の在り方を大きく変えるかもしれません。これからの時代は与えられた課題を手順に従ってこなすのではなく、正解のない問題を自分の責任と能力において解決する能力が必要とされます。

専修大学が何を教えてくれるかではなく、自分がどう学ぶのかを心掛けていただきたいと思います。

ともに逆境を乗り越えよう！

商学部長 渡辺 達朗

新入生の皆さん、ようこそ商学部へ。皆さんは1年次から神田キャンパスで学ぶ1期生です。

残念ながら、新型コロナウイルスは当初の予想以上に強敵で、新校舎への登校は、最悪の場合、前期いっぱいできず、オンライン授業がほとんどになる可能性があります。それでも私たちは楽しく学びながら、自らに磨きをかけていかねばなりません。そのためのコンテンツをさまざま準備しています。

この逆境が社会に大きな変化をもたらすことは確実です。私たち自身や大学全体、さらには日本全体が、そうした変化に対応した「デジタル・トランスフォーメーション」を遂げなければなりません。ともに頑張りましょう。

禍転じて社会知性と成す

国際コミュニケーション学部長 斎藤 達哉

入学おめでとうございます。新入生の皆さんの顔を見ながら、たくさん伝えたいことがありましたので、残念な思いです。私達がいま直面している事態は「禍」ではあります。しかし、私は、国際化社会の中での社会知性を学びとるための「試練」だと思うことにしています。新型コロナウイルスの急速な広まり方は、人の移動のグローバル化を如実に示しました。オンライン授業では、学修方法やコミュニケーション方法について、これまでの常識にとらわれない考え方が求められます。

皆さんがこの試練を乗り越えて、生き生きとした顔でキャンパスに集う日を心から待ち望んでいます。

